

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
グリーンツーリズムや農泊について	<p>グリーンツーリズムとか農泊に本気で取り組んでいくために、市とか、個人という単位だけではなくて、県全体でこういった農泊とか、本当に稼げる事業としてやっていける人たちの仲間づくりとか、プラットフォームみたいなのができたら、もっともっと早く、より充実した、お客様に支持される旅行の商品になるのかなと思う。</p>	<p>県域のグリーン・ツーリズム推進組織として「かごしまグリーン・ツーリズム協議会」が設立されており、県内のグリーン・ツーリズム実践者や地域の推進組織、NPO等の活動支援や、相互連携、情報交換等の活動を行っています。</p> <p>また、県では、かごしまグリーン・ツーリズム協議会と連携して、旅行者の安心・安全な受入態勢の整備や、教育旅行に加え個人客向けの農家民宿の開業促進に取り組むとともに、コロナ後を見据えた、宿泊施設等を起点にした農村体験プログラムの開発にも取り組んでいるところです。</p>	農村振興課
特産品の創生について	<p>南九州市らしい特産品やお土産を作ることとを目的として、南九州市の職員の方々と、我々事業者が一緒になって、来年の春から、南九州市名物創生実行委員会という会を作る予定になっている。知事が経産省時代に、このような会をご経験されたことがあれば、その中に、成功事例、失敗事例、いろいろあると思うが、その辺も含めてアドバイスいただけたら、我々も、そのことが励みになるんじゃないかなというふうに思う。</p>	<p>県では、多様化していく消費者ニーズに適切に対応した「売れる商品づくり」を支援するため、（公社）鹿児島県特産品協会内に鹿児島ブランド支援センターを設置し、新特産品コンクールの開催やアドバイザーの紹介・派遣、展示販売会等への出展支援等を行っているところです。</p> <p>また、同協会は、県内外だけでなく、海外でも物産展等を開催しているほか、個別事業者の相談支援による様々なケースも把握していることから、是非、同センターにご相談いただきたいと思います。</p> <p>そのほか、県では、食品関連企業を対象に、商品開発や販路開拓、海外認証取得など事業者のニーズに応じた一体的な支援を行っているところですので、併せて御活用ください。</p>	かごしまPR課 新産業創出室

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
福祉行政の縦割りについて	<p>（介護事業所で）活動をしているが、本当にこういういろんな問題にぶつかると、行政だとかいろいろなものは、すごく縦割りで、でも実際現場は、その縦の中で収まらないので、子供の問題にしても高齢者の問題にしても、全部横で繋がってる。本当に現場で私たちは頑張っているの、ぜひ知事にも、現場の人たちの声を聴いて欲しい。</p>	<p>県では、市町村における地域住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な相談支援体制の構築を促進するため、介護や障害、子育て等の各種相談支援機関を総合的にコーディネートする相談支援包括化推進員を育成しています。 引き続き、現場の皆さんの声を聴きながら、市町村と連携して必要な支援を行ってまいります。</p>	社会福祉課
荒茶加工について	<p>静岡では、鹿児島約10、15倍ぐらいの消費の、荒茶加工をやっている。やはり原料の供給だけでは、生産者も厳しいので、鹿児島茶、もしくは南九州市は、今、知覧茶という銘柄を前面に出して頑張っているの、今後、国内、海外に向けて、知覧茶をPRしていけたらなということしか、今後、お茶が伸びていくためにはないんじゃないかというふうに考えているのが現状。</p>	<p>県では、国内での認知度向上や、海外で需要が高まっている抹茶等の輸出拡大を図るため、国内においては、生産者と茶商が一体となって荒茶生産量日本一を目指し、販売協力店と連携した「かごしま茶屋」でのPR活動や、茶商が行う県外の茶小売店等への営業活動支援を行い、「かごしま茶」のシェア拡大に取り組んでいます。 海外に向けては、有機茶の生産拡大や品質向上、有機JAS認証取得の推進、てん茶・抹茶加工施設の整備促進、海外バイヤーを対象とした県内産地視察や商談会の開催、海外商談会への出展支援に取り組んでいます。 また、色・味などの市場評価が高く、将来の輸出拡大に期待される新品種「せいめい」の産地化に取り組んでいます。 県としては、「かごしま茶」が生産量・産出額ともに日本一となることを目指し、引き続き、関係機関・団体と一体となって、儲かる茶業経営の実現に向けて取り組んでまいります。</p>	農産園芸課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>農業における 基盤整備事業 について</p>	<p>今後、機械化がどんどん進み、大型化していく中で、この20アール未満の畑の耕作放棄地が出てきているのが、農業委員会の中でも問題になっている。それと、相続放棄で、貸し借りとか農地の売買とかいった部分で、なかなか、話が前へ進まないという実態もある。</p> <p>今後、農業コストを考えると、耕地の耕作面積の1区画あたりが、せめて今20アールだったのを40アール以上、理想として言えば40アールから1ヘクタールで、そういった、新たな令和の時代の農業構造改革事業という部分で、これから機械化がどんどん進んでいく中で、若い後継者、それから担い手が育っていくという、そういう国、県、市町村、一体となった基盤事業をもう1回やってもらいたい。</p>	<p>県では、担い手への農地集積・集約化と併せて、大型機械の導入が可能となるようなほ場の大区画化は、効率的かつ安定的な農業経営の育成や農業生産性の向上のために必要だと考えています。</p> <p>対応できる基盤整備は、各種補助事業があり、事業要件や所有者等の同意を得た上での実施となりますので、具体的なご要望については南九州市を通じて南薩地域振興局農村整備課へご相談ください。</p> <p>相続放棄などによる所有者不明農地については、法律が改正され、共有者の過半が判明しない場合でも、農業委員会が相続人を農地登記名義人の配偶者や子までの範囲で探索し、農地中間管理機構へ貸し出すことについて半年間公示を行うなどの手続きを踏まえば、最長20年間、農地の貸付が可能となっていますので、詳しくは最寄りの地域振興局・支庁や市町村等に御相談ください。</p>	<p>農地整備課 農村振興課</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>・2023国体におけるスタンス（トランスジェンダー）</p>	<p>生まれながらの自分の姿と、思い、心の違いというところが、スポーツ界において、自分は女性ですと言っても、体つきが男だったりすれば、そこには大きな差異が出てくる。それについて、鹿児島国体では、どのようにとらまえて行っていくのか。その鹿児島県のこの2023年へのスタンス。</p>	<p>国体における選手の参加資格については、日本スポーツ協会が定める国民体育大会開催基準要項細則で規定されていますが、トランスジェンダーに関する規定はないところです。現時点においては、参加資格等については、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査審議の上、日本スポーツ協会が決定することとなっております。</p>	<p>競技式典課</p>
<p>・学校におけるジェンダー平等への取組（制服等）</p> <p>・性的マイノリティへの配慮について</p>	<p>それから同時に、このことは、子供たちの学び舎に関してもいえるのかなと、そういうふうに思っている。どのように、子供たちに学ぶ環境というものを作っていったらいいのか。例えば、県の公立学校等の制服などを一つ考えてみてもいいかな。</p> <p>ジェンダーレスの問題、性同一性障害の問題、ここについて、男女共同参画基本法において、鹿児島県は一步一步、進んではいるんでしょうけれども、子供たちの学びや、またはスポーツ界においてのスタンスをお話しいただければなと思う。</p>	<p>学校では、児童生徒が性的指向や性自認に関わらず、安心して学べるよう、児童生徒の心情に十分配慮し、状況に応じた支援を行っています。</p> <p>例えば、当該児童生徒と他の児童生徒への配慮の均衡を取った上で、スカートをはきたくない場合はズボンや体育服の着用を認めたり、男子用トイレを使いたくない場合は多目的トイレを利用させたりしています。</p> <p>なお、県立高校では、開陽高校を除き、制服を採用していますが、従来の詰め襟・セーラー服を近年ブレザーとしている学校やスカートかスラックスかを選択できる学校があります。選択制を採用していない学校でも、性的マイノリティとされる生徒の状況や心情等に配慮して、自認する性別の制服や体操服の着用を認めているところです。</p>	<p>人権同和教育課</p> <p>高校教育課</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>人口減少に伴う自治会問題について</p>	<p>人口減少問題は、全国的な問題だが、南九州市でも、毎年600名、10年で6000人以上の人口減少の状況にある。</p> <p>その中で、自治会をどう維持していくのかということが大変大きな課題になっている。自治会の中では、やはり人口減少、超高齢化によって、自治会の役員のなり手がいなかったり、行事ができなくなるという状況がある。</p> <p>それを地域全体で、解決していこうという方法に持っていくにはどうすればいいかなということで大変迷っているところもある。</p> <p>県として、この人口減少に伴う自治会問題について、今後どのような対策を考えているのかお尋ねしたい。</p>	<p>人口減少が進行する中、単独の自治会等だけでは地域課題の解決が困難な状況が見られることなどから、県では、小学校区などの範囲において、自治会やNPO、企業など地域の多様な主体が連携・協力して地域課題の解決を図る地域コミュニティ（コミュニティ・プラットフォーム）づくりに向けた市町村や地域の取組を促進しています。</p> <p>具体的には、アドバイザーの派遣や地域課題の解決を図る取組に対する支援などを実施しているほか、地域づくりの人材を育成するための講座の開催などに取り組んでいるところです。</p> <p>今後とも、市町村と連携を図りながら、地域の実情を踏まえたコミュニティ・プラットフォームづくりとその活動の充実に向けた取組を促進してまいります。</p>	<p>くらし共生協働課</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>鳥インフルエンザ対策について</p>	<p>私ども生産者にしっかり寄り添っていただき、一緒になって防疫強化に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>また、万が一、鳥インフルエンザが発生した場合には、円滑なまん延防止に努めるべく、防疫措置、そして殺処分を速やかに行なって欲しい。どうか今シーズンは、南九州市、そして本県鹿児島県から出さないという強い信念のもと、しっかり取り組んでいくので、どうか県の皆様方におきましても、我々としっかり寄り添っていただき、鳥インフルエンザを発生させないよう、どうかよろしく願いしたい。</p>	<p>県では、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図るなど、養鶏農家や関係機関・団体と一体となって、高病原性鳥インフルエンザの発生防止対策に取り組んできているところです。</p> <p>しかしながら、11月13日及び15日に出水市の養鶏農場、1月13日に長島町の養鶏農場において、高病原性鳥インフルエンザが発生したことから、県では、発生農場における初動防疫措置を速やかに実施するとともに、発生農場から半径3km以内を移動制限区域に、半径3kmから10km以内を搬出制限区域に設定し、幹線道路沿いなどに消毒ポイントを設置するなどまん延防止対策を講じました。</p> <p>また、本県独自の「高病原性鳥インフルエンザまん延防止緊急対策」として、家畜伝染病予防法に基づき、県内全ての養鶏農場に消毒とネズミ駆除を徹底する命令を発出するとともに、毎日の自主点検の実施など飼養衛生管理基準の遵守強化などを図ることとしています。併せて、県内全ての養鶏農場への消石灰や殺鼠剤の支援を通して、対策の実効性を高めているところです。</p> <p>県としては、引き続き、更なる発生の防止対策に取り組んでまいります。</p>	<p>畜産課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>若い人がチャレンジできる補助制度等について</p>	<p>地域の課題がたくさんある中で、やはり若い人たちが、飯食っていけるかつ、しっかりと新しいチャレンジができる。この土壌を作らないと、本当に幾らお金をいろんなところに投資しても、やはり人材不足というのは、ずっとずっと直面し続ける課題であろうと思う。</p> <p>若い人たちがチャレンジできるような補助制度がもっともっとあることで、いろんなチャレンジができる土壌ができると思う。これは商工関係で特にあるかと思う。そこのちょっとお話をもしよければお伺いできればと思う。</p>	<p>若い方々が、生まれ育った地域において新しいチャレンジができるようにするためには、高校生までに地域の課題について考え、一旦地域の外に出た場合でも、そこでの様々な経験等により培った能力やネットワーク等を、郷里に戻って地域の課題解決のために生かそうとするところにつなげることが重要であると考えています。</p> <p>チャレンジできる補助制度について、県においては、例えば商工関係では、起業に向けた機運醸成を図るため、ビジネスプランコンテストを開催し、ビジネスプランの策定や事業化に必要な資金面の支援等を行っています。</p> <p>また、「かごしま地域課題解決型起業支援事業」を実施しており、地域が抱える課題の解決に資する社会的事業の起業に対する支援も行っております。</p> <p>このほか、今年度、県庁最上階（18階）にコワーキングスペース「かごゆいテラス」を整備し、社会課題の解決に向けた新事業の創出や起業に向けた機運の醸成を図ることとしております。</p> <p>今後とも、若い方々が新しいチャレンジができるよう、県としても関係機関と連携しながら、各種補助制度の周知等を行ってまいります。</p>	<p>商工政策課 新産業創出室</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>デザイン等のクリエイティブ人材の育成・強化について</p>	<p>生産だけじゃなくて、付加価値をどう作るか、クリエイティブデザインであったりとか、その文化的なところの価値をどうやって作るかというところで、やはりデザインの可能性、クリエイティブ人材の強化というところはすごく必須なのかなと思っている。 これは国内国外に問わずかと思うが、こういったところの強化、県の方で強化していくところの話というのを聞かせていただきたい。</p>	<p>県では、食品関連企業を対象に、販路開拓に精通した専門家のアドバイスのもと、商品コンセプトや商品規格の見直し、デザイン支援等により、目指す販路に向けた商品のブラッシュアップ支援を行っているところです。 また、デザイナーの資質向上等を目的として、毎年、NPO法人かごしまデザイン協会と連携して、企業やデザイナーが出展した商品の展示・販売等を行う「かごしまデザインフェア」を開催しています。 引き続き、クリエイティブ人材の育成・強化を図ってまいります。</p>	<p>新産業 創出室  産業立 地課</p>



知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>モリンガのような新しい農作物の商品化について</p>	<p>これからモリンガがどうなっていくのかは私たちも分からず、これから作り上げていくものだというふう に考えている。その中で、農家と一緒にやっ ていく、非常に皆さんからお話 いた だいて、うれしかったこと があり、モリンガという新 しい食物を栽培するにあ たって、わからないこと を、自らみんなで勉強して いく、それで自分たちでマ ニュアルを作っていくんだ と。そういう、農業のあり 方が非常に楽しいと思う。 また、自分たちで商品を開 発してみるとか、自分たち の作ったモリンガ等を小売 商品として取り扱うように なる。そういうことができ る今の時代だということ で、みんなで共有してい る。そういった時に自分た ちができること、そういつ た小売商品化のノウハウ、 そういうのは出し惜しみな く、お伝えしていくとい う ふう に考えているし、皆さんと企業で、そういったノ ウハウっていうのは、ア ップ デートし続けていき たい。</p>	<p>県では、モリンガ等の新規農産物の加工品開発について、大隅加工技術研究センターの施設開放や技術指導等により、商品開発の支援を行っているところです。必要な際は、同センターに御相談ください。</p>	<p>かまごしの食ブランド推進室</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>県の技術職員の確保について</p>	<p>土地改良区の更新のみならず、いろんなところで、いろんな豪雨災害等によって、災害が発生していて、その際も、技術職員というのがどうしても必要ではないかと思っている。この技術職員の確保について、知事のお考えをお聞かせいただければと思う。</p>	<p>技術系の職員採用試験の受験者確保については、大学等の就職説明会への参加や、技術系の大学・高等学校での勧誘活動を行うとともに、職場見学及び若手職員との意見交換等を行う「県職員お仕事ガイドス」、県内各地の仕事現場を訪ねる「技術職現場見学会」などにより技術職の魅力ややりがいについて情報発信をしてきているところです。</p> <p>令和3年度は、新たに、県外企業等の職務経験者を対象とした技術職の採用試験において、受験資格を緩和するなど柔軟な試験の実施に取り組むとともに、若手職員が技術系公務員の魅力をもPRする動画の制作や、オンラインでの個別面談の実施など、技術職の受験者確保に向けた取組を強化しているところです。</p> <p>今後とも、技術職を含めた優秀で多様な人材を安定的に確保するため、柔軟な採用試験の実施や、情報発信等に積極的に取り組んでまいります。</p>	<p>人事委員会事務局総務課</p> <p>人事課</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>土地改良事業等について</p>	<p>大規模整備地区の土層改良、土壌改良のローテーション化について。これらによって土づくり、地力状況、また農薬に頼らない病害虫対策、安心安全で高品質な作物づくりが期待されるのではないかと考えている。</p> <p>次に、中小規模整備地区における、水田、また中山間地域の再生について。これによって、農地の集約、耕作放棄地対策、担い手支援、大型機械化への対応、あと既存の施設の老朽化対策などが期待されるのではないかと考えている。</p>	<p>地力回復を図る土層改良、土壌改良や担い手への農地集積・集約化などは、安定した農業経営のために必要だと考えています。</p> <p>土壌改良については、農業生産に由来する環境負荷を低減する取組として堆肥の施用を支援する事業があります。また、中山間地域の再生については、各種補助事業がありますので、土層改良のローテーション化など、具体的なご要望については、南九州市を通じて南薩地域振興局農政普及課、農村整備課へご相談ください。</p>	<p>農村振興課 経営技術課 農地整備課</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>伐根した茶樹の安全管理について</p>	<p>茶園における、伐根した茶樹の安全管理について、伐根した茶樹の処分が必要になるが、一部では業者によって、粉碎処分が行われているが、やはりまだ自主焼却によるものが多い。農業者への安全対策、作物への影響、また、近年言われている、SDGsへの取り組み、こういったものを考える上で、粉碎机や搬出による処分が望ましいのではないかと考える。しかし、粉碎机の購入や管理、また、搬出処分には、多額の費用を要するため、これらに対するの対応を、検討していただけないかと思っている。</p> <p>そういった、中規模小規模農家が取り組みやすいような事業の仕組みづくり、こういったものを合わせてお願いしたい。</p>	<p>茶園の改植や廃園を行う場合は、抜根、持ち出し等の経費を支援する国庫事業がありますので、南九州市の農政担当部署にご相談ください。</p>	<p>農産園芸課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>J R 指宿枕崎線について</p>	<p>鉄道というのは、地域内、地域外から人を運ぶ手段であり、地域外から人が来るといことは、外貨を稼ぐ手段になるということとで考えていて、ただ乗って残そうというよりは、乗りたいくなる鉄道を目指して、魅力を作っていくと。その中で、お茶だとか、あと農産品、お肉だとか、あとプラスして枕崎のかつおだとか、そういった特産品だったりとか、あとプラスして、J R 最南端という立地を生かした景観を生かした路線づくり、ちょうど薩南海岸県立自然公園というのが認定されて、J R の路線というのはそのちょうど沿線になるので、そういったことをプラスして生かしながら沿線の景観を生かすといったことで、活用実施を行う、プロジェクトチームづくりということ考えていきたい。</p>	<p>在来線は、地域住民の日常の交通手段として、また観光など地域振興にとっても重要な公共交通機関であると考えております。</p> <p>県では、指宿枕崎線の利用促進を図るため、県や沿線自治体等で構成する県鉄道整備促進協議会において、鉄道の利用促進活動を行うサポーター団体の募集・活動助成や、沿線市の魅力を紹介する電子ガイドブックの作成などを行っております。また、南薩地域振興局において、南薩の駅等を巡る「謎解き」イベントなども行っております。</p> <p>また、昨年度から、県、沿線自治体、J R 九州等をメンバーとする検討会を定期的に開催し、利用促進策の検討などを行っております。</p> <p>在来線の維持・存続が図られるよう、県としても、引き続き沿線自治体等と連携しながら利用促進に取り組んでまいります。</p>	<p>交通政策課</p>
<p>肥薩線の復旧について</p>	<p>肥薩線が、去年の豪雨で寸断されて、八代から吉松まで、今止まっている。鉄道は基本的にネットワークで力を発揮するものだと思うので、今後そういった不通区間の復旧だとか、今熊本県がメインになるかと思うが、そういったところについても、熊本から鹿児島に人流があったりとかすると思うので、そういったところも意識していただければと思う。</p>	<p>肥薩線の復旧に関する情報収集に努めるとともに、早期復旧が図られるよう、熊本県等と連携してまいります。</p>	<p>交通政策課</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>サツマイモ基腐病対策について</p>	<p>知事は、農水省も行っていただいたりとかしてると思うが、県から国への働きかけ、国が研究機関を使ってどういうふうに取り組んでいるのか、そういった情報を教えていただきたい。</p>	<p>サツマイモ基腐病対策を進め、さつまいも生産者の経営安定を図るため、国に対して、資材等支援と継続栽培支援に必要な予算の確保、ウイルスフリー苗・健全な苗・種いも供給に必要な蒸熱処理装置の購入支援などについて要請し、国の令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算に計上されたところです。</p> <p>また、国の研究機関においては、現在、本病に比較的強い系統の登録手続き中であり、今後、感染した種いも等を選別する技術の開発についても取り組むとしております。</p> <p>県では、12月補正予算に「サツマイモ基腐病対策推進事業」を計上し、育苗施設における健全な苗の提供の支援や、これまでの取組で明らかとなった防除対策の周知等を行うこととしています。</p> <p>引き続き、関係機関・団体と一体となって、基腐病対策に取り組んでまいります。</p>	<p>農産園芸課 経営技術課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>穎娃町における農作物を販売する道の駅等の整備について</p>	<p>どう売るか、どこで売るかというところで、穎娃町にはその施設がないなど。すなわちルート225号線、番所鼻で今、公園の活性化を進めているので、この近辺に、穎娃町の道の駅がないんで、こういったものも取り組むと。地域の雇用と安い新鮮な野菜を皆様に届けるルートを作る、こういった取組が必要じゃないか。</p>	<p>道の駅は、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供や地域の振興に寄与することを目的とした施設であり、道路利用者のための24時間、無料で利用できる駐車場・トイレなど休憩機能、道路利用者や地域の人々のための情報発信機能、文化教養、観光レクリエーションなど地域振興を図る地域連携機能の三つの機能を有するものです。</p> <p>また、道の駅は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置できることになっており、市町村長からの登録申請により、国土交通省が登録後、道の駅として運営できるようになっております。今後、市町村から相談があった場合は、助言等対応してまいります。</p> <p>なお、指宿市や枕崎市に地方卸売市場がありますので、野菜等の売り先としてご検討いただければと思います。</p>	<p>道路維持課 ブランド推進室</p>
<p>耕作放棄地について</p>	<p>耕作放棄地について、例えば町が市が県が国が、管理化した上で、課税をしても、強制的に流動化する必要というのは、非常に極端な考え方だが、そういった部分も必要なんではないかと思ったので、そのあたり、知事のお考えも教えていただければと思う。</p>	<p>耕作に供されていない農地等の荒廃農地については、農地法に基づき、農業委員会が農地所有者に利用意向調査を行い、必要なあっせんや農地利用調整活動を行っています。</p> <p>県としては、農業委員会による荒廃農地の改善指導等を促進するとともに、市町村等と連携しながら、日本型直接支払制度などを活用し、荒廃農地の発生防止・解消に努めてまいります。</p>	<p>農村振興課</p>

知事とのふれあい対話（南九州市）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
将来ビジョンについて	<p>知事はこの鹿児島をどのようにしたいというふうなビジョン、考えをお持ちなのか。</p>	<p>本格的な人口減少など、大きな変革期の中にあって、何よりも時代の流れを的確に見据え、県勢の発展や県民福祉の向上に向けて、各般の施策を着実に推進していくことが求められています。</p>	
スローガンについて	<p>鹿児島県のあるべき姿みたいなのを、知事がリーダーとなって、何かスローガンか何かで挙げてもらえたら。</p> <p>そしたら、それに向かって、160万人の鹿児島県民が、みんなそっちに向かって1人ずつみんなが同じベクトルを向いたらこれは非常に大きな力になるのではないかと思う。</p> <p>一つ一つの課題を一つ一つ潰していくというのも、それは大事なことと思うが、その大きなテーマに向かって進むときには、その課題解決の優先順位も、それがはっきり見えてくると思う。</p>	<p>将来を見据え、魅力ある本県の素材「ポテンシャル」を最大限に生かしながら、地域に仕事をつくり、地域への人の流れをつくっていくことが重要であり、デジタル社会の実現に取り組みながら、住みやすい地域づくり、より多くの人材に選んでもらえる地域づくりを目指してまいりたいと考えています。</p> <p>今後の県勢発展の基盤をしっかりと作っていくため、鹿児島の基幹産業である農林水産業、観光関連産業の更なる振興に取り組むとともに、高い技術力を有する製造業の競争力の強化や将来を担う新たな産業創出にも取り組み、鹿児島の「稼ぐ力」の向上を図ってまいりたいと考えています。</p> <p>こうした様々な取組を通じて、経済を持続的に発展させることで、地域の格差是正を図り、県民所得の向上を図って、県民の皆様の暮らしと雇用を守ることにより、「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」を目指したいと考えています。</p>	総合政策課



意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
食料自給率について	<p>（食料自給率について）鹿児島県は非常に高く、78%あるようだが、それを早くに100%にすると。農業に力を入れていくということになると、農業に対する課題、優先順位を上げて対策を打つということになると思う。</p>	<p>我が国の食料供給基地である本県としては、担い手の減少・高齢化の進行や労働力不足など、農業が抱える課題を解決し、我が国における食料自給率の維持・向上に努める必要があると考えています。</p> <p>このため、県では、担い手となる大規模経営体や後継者の確保・育成、農地中間管理事業等を活用したこれら担い手への農地集積・集約化の取組を進めています。</p> <p>さらに、スマート農業の現場実装など生産性の高い農業の推進、大規模畑地かんがい施設を活用した収益性の高い営農の確立などに取り組んでいるところです。</p> <p>今後とも、我が国の食料供給基地として生産拡大に努めてまいります。</p>	農政課
エネルギーの自給体制構築について	<p>エネルギーの自給体制構築について、「集中発電から分散発電へ」を提案していきたい。</p> <p>自分自身も自給体制を整えるために、屋根に、太陽光パネルを設置して、蓄電池も設置してということをやっているが、例えば、民家の屋根にもっとたくさん設置するとか、或いは、ショッピングセンターとかコンビニとかの駐車場の上にパネルを設置して、そこで発電したり、蓄電したりという、或いはそこで売電したりとか、そんな仕組みができて面白いんじゃないか。</p>	<p>県における地産地消型再生可能エネルギーの導入については、これまで、市町村と連携し、エネルギーを地産地消するまちづくりなどに取り組んでおります。また、今年度は、民間事業者等が、燃料電池自動車や蓄電池等の自立分散型エネルギー設備を導入する際の支援を行うとともに、県立奄美高校屋上に蓄電池を併設した太陽光発電設備を設置することとしています。</p> <p>引き続き、このような取組を通じ、市町村などと連携し、地産地消型再生可能エネルギーの導入促進を図ってまいりたいと考えております。</p>	エネルギー政策課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>敵から身を守る体制の構築について</p> <p>・川内原発について</p>	<p>国際情勢が非常に緊張感を増してきているような気がする。争う姿勢を見せなるとか標的になるものを持たないとか敵から身を守る体制を構築する必要がある。</p> <p>そのためには、川内原発を廃炉にする。我々も、近くはないが、その電気を使っている。川内近隣の方々のリスク犠牲のもとに我々は今電気を使っている。そういうこともあるんで、これは、確か知事のマニフェストに書かれてたのは、意見を聞いて最後住民投票するというようなところがあったと思うが、住民投票する際に、「補助金交付金がなくても賛成ですか、反対ですか。」この項目をぜひ入れてもらいたいと思う。</p>	<p>原子力発電所の運転期間については、原子炉等規制法で40年とされており、国の原子力規制委員会が認めた場合、1回に限って20年まで延長することが認められています。川内原発については、九州電力が運転期間延長の認可申請を行う場合には、「原則40年」との認識の下、特例的な取扱いの可否について、原子力政策に批判的な学識経験者を含む形で、県原子力安全・避難計画等防災専門委員会の委員構成を見直した上で、特別点検の結果や原子炉等の劣化状況の評価、原子力規制委員会における審査の状況等について九州電力に説明を求め、科学的・技術的な検証を徹底的に行い、九州電力及び原子力規制委員会に対して、厳正な対応を要請してまいります。</p> <p>知事のマニフェストでは、「川内原発1号機・2号機の20年延長については、必要に応じて県民の意向を把握するため、県民投票を実施する」とされているところです。</p> <p>県民投票につきましては、専門委員会の意見が集約されない場合において、県民の意向を把握するために公聴会等の他の手段より適切であると判断した場合が想定されるためであり、今後、様々な観点から検討を行い、総合的に判断してまいります。</p>	<p>原子力安全対策課</p> <p>エネルギー政策課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>敵から身を守る体制の構築について</p> <p>・馬毛島における自衛隊施設整備について</p>	<p>馬毛島に関しても、私が思うに、原爆がなぜ広島長崎に落とされたか。広島長崎には三菱重工の軍事工場があったからだと思う。それが太平洋戦争でなぜ我が国は真珠湾を攻撃したのか。そこに米軍の航空基地があったからだ。軍事施設というのは、敵国の攻撃ターゲットになるということ、はっきりしたと思う。馬毛島にそんなものを作って、おそらく、国のやることだから訓練基地が戦闘基地に変わっていくことは十分想定できる。</p>	<p>防衛・安全保障政策は国の専管事項ではありますが、国が安全保障上の施策を進めるに当たり、地域住民の間に不安や懸念が生じないように、国は十分な説明責任を果たす必要があると考えております。</p> <p>馬毛島における自衛隊施設の整備等については、これまで、住民や関係自治体などから、騒音による周辺環境への影響や、漁業への影響などを懸念する意見が出ているところであります。</p> <p>国に対しては、関係自治体との意見交換のたびごとに、その内容をお伝えするとともに、関係自治体等への詳細な説明を行うように重ねて求めてきたところであります。</p> <p>県としては、今後、国により環境影響評価等が行われ、住民の皆様方が適切に判断できる材料が示されると考えており、その時期や内容を見極める必要があると考えています。</p> <p>今後とも、関係自治体の首長と意見交換を行い、その内容を国にお伝えするとともに、国による説明や地元の見解をお聞きした上で、県としての考え方を整理し、対応を検討してまいりたいと考えております。</p>	<p>総合政策課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
郷土愛について	<p>地域おこしに一番必要なのは郷土愛だと思う。郷土愛醸成を方針に掲げた人材育成。結構Uターンされている方いると思うが、有能な人材がよその地に行って、スキルアップしてまた戻ってきて欲しい。そこには郷土愛がなかったら戻ってこないと思う。</p>	<p>鹿児島に生まれ育った若者が鹿児島に住み、働きたいと思えるように、子どもたちが郷土について学び、歴史や伝統・文化への理解を深めることは重要であり、このことが郷土への誇りや愛着の醸成に繋がっていくものと考えます。</p> <p>小・中学校では社会科や総合的な学習の時間等の活動を通して、また、高校では総合的な探究の時間等を活用して、郷土のことを知り、地域の課題について考える学習活動を行っています。例えば、穎娃高校では、地域のNPO法人と連携して、駅の修繕や古民家再生に取り組んでいます。</p> <p>県としては、地域の企業や地方自治体と連携・協働することで、地域の振興を担いその良さを発信できるような人材を育成していきたいと考えています。</p> <p>また、県では、大都市圏における移住・交流セミナーの開催など、市町村と一体となって、本県へのUターンの増加を目指した取組を進めています。</p> <p>昨今、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人の移動に制約がある中で、テレワークなどの活用・定着が進み始めたことは、人々の意識変化につながっており、地方回帰の機運がさらに高まっております。</p> <p>この地方回帰の流れをしっかりと逃すことなく、地域の魅力を一層高めていくため、地域資源の磨き上げはもとより、テレワークや二地域居住などの新しい働き方・暮らし方の広がりや、人々の価値観の変容を踏まえた住みやすい地域づくり、より多くの人材に選んでもらえる地域づくりに取り組む必要があると考えております。</p>	<p>義務教育課</p> <p>高校教育課</p> <p>地域政策課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>農業と観光業について</p>	<p>鹿児島県は農業と観光が基幹産業，これ本当に，自然の恵みによる産業だと思う。ここは，優先順位を上げて取り組んでいただけないか。</p>	<p>農林水産業，観光関連産業などの，本県の基幹産業については，地域の資源を生かして，地域の方々がしっかり暮らしていける，稼げる産業として発展させていくことが重要だと考えております。</p> <p>【農林水産業】 農林水産業を支える人づくり・地域づくりの強化，ICT等の活用による生産・加工体制の強化，付加価値の向上，生産者，関係団体等と一体となった販路拡大や輸出拡大に取り組み，農林水産業の更なる発展を図ってまいります。</p> <p>【観光関連産業】 データの分析等に基づいた観光客数の増加を図るとともに，幅広い関係者が連携した観光地域づくりを推進し，観光消費額の増加を図ってまいります。</p>	<p>農政課 観光課</p>
<p>鹿児島旅クーポンについて</p>	<p>「かごしま旅クーポン」について，先日購入したが，夏場に，奄美群島に行けなかった。 期限は1月の末までだが，冬場よりも夏場の方がいいのではないかと思うので，この分だけ何とかこの夏まで延長していただけないか。</p>	<p>「かごしま旅クーポン」は，県民の皆様には，県内の様々な地域を旅行していただくことで，改めて鹿児島の魅力を再発見していただくことを目的に販売しているところです。 御提案のありました利用期限の延長につきましては，予算制度上，これ以上延長することができませんでしたが，年明け以降，感染拡大によりクーポンの利用の自粛をお願いせざるを得ない状況となったことから，払戻しをさせていただきます。 なお，詳しくは，県ホームページ等で御案内しています。</p>	<p>観光課</p>